

平成 29 年 10 月 2 日

平成 29 年 10 月博士前期・後期課程入学式告辞

九州工業大学長 尾家祐二

ご入学おめでとうございます。

ここに入学式を挙げるにあたり、栄えあるこの日を迎えられました皆さんに、心からお祝いを申し上げます。そして、これまでのご努力に敬意を表します。九州工業大学に皆さんを迎えることができましたことは、この上ない喜びであります。教職員を代表してお祝い申し上げます。

なお、本日入学をされる 49 名の皆さんのうち、44 名、約 90%は、16 の国や地域からの留学生の方達です。多くの国と地域からたくさんの方々入学されることを、大変嬉しく思います。

最初に本学の歴史を簡単に紹介します。

これから皆さんが学ばれる九州工業大学は、1909 年に開校した私立明治専門学校を前身としています。創立者は、安川敬一郎氏です。わが国の産業の礎となった北九州及び筑豊地域で安川電機の設立など様々な産業を興された経済界の重鎮です。

明治時代の日本は、産業面、経済面において、当時の世界の大国からは、大きく遅れをとっていたため、国家を支える人材育成が必要でした。安川先生は、「国家によって得た利益は国家のために使うべきである。」という信念から巨額の私財を投じ、我が国の産業の振興を支える技術者を育成する明治専門学校を創設されました。

安川先生は明治専門学校の教育と研究を、東京帝国大学総長であられた山川健次郎先生に託されました。山川先生は、開校式において、明治専門学校を「技術ニ通ジテイルジェントルマンヲ養成スル学校デアル」と宣言され、品格と創造性をもつ人材を輩出することを目指されました。この山川先生の志は、「技術に堪能なる士君子」の養成という本学の建学の理念として、100 年以上の歴史を越えて脈々と伝えられ、現在に至っています。新入生の諸君は「技術に堪能なる士君子」という言葉をこの場で覚えて頂きたいと思います。

明治専門学校は、その後 1949 年に国立九州工業大学となり、2004 年から国立大学法人九州工業大学となりました。この間に、飯塚市に昨年度 30 周年を迎えた情報工学部、17 年前に若松の北九州学術研究都市に大学院生命体工学研究科を設置し、2 学部 3 学府・研究科、学生数約 5700 名を擁する、わが国有数の個

性豊かな工学系大学となり、現在に至っています。

さて、皆さんがこれから学び、大学院修了後、その成果を活かしていく社会がどのように変わっているのか、変わろうとしているのか、一緒に見てみたいと思います。

皆さんご存知のように、今日、情報通信、生物工学、新材料などの技術の進展は目覚ましく、社会システムのみならず、人間そのものについても大きな変革を引き起こしつつあります。しかもその影響は、国境を越え、地球規模の大きさになっています。その変革は、1960年代から起きた、半導体、コンピュータ、インターネットの開発、普及による、デジタル革命である第3次産業革命に続くものです。それらを基盤としたビッグデータ、AI、ロボット等の技術の発展によって、大規模な変革がおきつつあり、世界経済フォーラムの創設者であるクラウス・シュワブ氏は、「第4次産業革命と呼ぶにふさわしい革命が進行中である」と述べています。(クラウス・シュワブ著「第4次産業革命 ダボス会議が予測する未来」日本経済新聞出版社)

皆さんは、今、スマートフォンなしで、人と待ち合わせる方法を想像できるでしょうか？インターネットなしで、海外の人と仕事を行うことを想像できるでしょうか？ネットワークに繋がっていないコンピュータを想像できるでしょうか？第4次産業革命を経て、さらに、新たな日常、新たな常識が作られていくことでしょうか。そして、私達の思考法も変化してしまうでしょうか。是非とも、その変革に興味を持ち続けてください。

一方で、彼の著書の中で、「世界人口の17%、約13億人は電気を利用できない。そして、世界人口の約半分、約40億人がインターネットにアクセスできない」ことも指摘されています。2015年9月の国連サミットでは、持続可能な世界を実現するために、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、2030年までに、世界で達成すべき17の持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)が掲げられています。目標の1番は「貧困をなくそう」で、「つくる責任、使う責任」に関する目標や、17番目には「パートナーシップで目標を達成しよう」という目標もあります。このような視点も大変大切です。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html

<https://sustainabledevelopment.un.org/?menu=1300>

皆さんは、これから、工学分野の様々な知識やスキルを学ばれます。そして、新たな知を生むための研究活動を行います。まず、知的好奇心から、学びが始まります。知識やスキルは、その好奇心、探求心が導いた学習の成果です。そ

して、それらが、課題発見や解決を可能にします。さらに、私たちは孤立した存在ではなく、様々なネットワークを持っており、その中の一員です。そのような文脈において、相互作用が生じ、互いに影響し合い、学びが進化していきます。様々な国の人達が、チーム内で、互いに影響し合って、成長することは掛け替えのない学習成果です。学生時代には、知的好奇心、探求心を持ち、様々な相互作用を通じて、多くのことを学んで欲しいと思います。本学修了後も、それらの学習成果によって、皆さんが、社会の要請や科学技術の変化に対応し、成長し続けることができるようになることを確信します。

工学は、明日を創るための学問です。工学分野の様々な知識やスキルを修得し、新たな知を生み出すとともに、明日をどう描くか、どのような明日に貢献したいかについて考えることが必要です。先ほど紹介しましたように、本日は、17の国と地域から、49名の皆さんが、本学に入学されました。いろいろな問題が、多くの国と地域に関連し、複雑化していく中で、それぞれの国と地域が孤立せず、交流しあい、相互理解し、地球規模で考えることが大変重要になってきています。皆さんは、技術者であるまえに地球市民の視線で考えることが大切になります。

最後となりましたが、入学された皆さんが、健康に十分留意され、様々な学習機会と環境を活用し、意義ある大学院生活を過ごされ、本学を選択したことが良い選択となりますことを重ねて希望致しまして、告辞と致します。本日は誠にありがとうございます。